

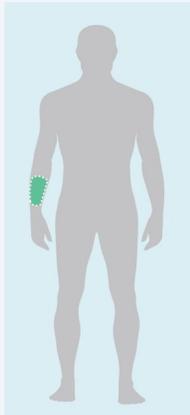
# 小範囲全層熱傷への自家網状植皮とRECELL<sup>®</sup>併用により完全上皮化を1週間以内に達成

**CASE STUDY / James H. Holmes, MD / Wake Forest Baptist Medical Center, Winston Salem, NC**

## 患者の状態

火炎熱傷による20%TBSAの混合深度熱傷を受傷した43歳男性。本症例では、左腕の全層熱傷に対する1:1網状分層植皮 (STSG)、及びそれと比較した2:1網状STSGとSpray-On Skin<sup>™</sup> Cellsを併用したRECELL治療に注目する。

## RECELL治療部位



## 結語

本症例により、小範囲全層熱傷にRECELLをより高倍率の網状植皮と組み合わせることで37%の採皮面積縮小を実現しつつ従来法と同等の効果が得られたことが示された。

本症例では、また、患者および観察者の長期の癒痕アウトカムについても注目している。



## 治療法

この患者の治療は、前向き無作為化比較試験の一環で行われた。接線切除を全治療部位に実施し、無作為化を行った。コントロール部位に使用する1:1網状STSGの採皮を行った(図A)。一方、2:1網状STSGの上からRECELLシステムで作成したSpray-On Skin<sup>™</sup> Cellsを適用した(図E)。どちらの創部の被覆にもTelfa<sup>™</sup> Clearを使用した後、Xeroform<sup>™</sup>及び厚みのあるドレッシング材を使用した。

## 臨床的アウトカム

RECELLおよびコントロール部位のどちらも術後1週目には治癒した(図B&F)。患者と観察者による癒痕評価(POSAS)では術後52週目で2つの治療部位に差は無く、どちらも最高のスコアが付けられた(図D&H)。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

